

自立活動部だより



第3号 平成28年1月20日発行

自立活動部だより第3号では、先号に引き続き11月に開催された秋田県総合教育センターのC講座、『見る』『聞く』機能の理解と支援』についてご紹介します。今回は、視覚や聴覚に関する授業場面における配慮点や授業づくりの工夫はどうあればよいか、についてです。

盲学校 中村素子先生の講話より

◆視覚に配慮した授業づくりの工夫について

- 視覚に配慮した授業づくりにおいては、「**内的視覚条件**（図1）の**評価**」と、「**外的視覚条件の評価**」両面からのアセスメントが必要。
- 「**内的視覚条件の支援**」
 - 1 視覚矯正、視力低下の予防を
 - 2 遊びの中で能動的な視覚活動を
 - 3 日常生活動作の中で視覚と運動の発達を（幼児期から）
 - 4 子どもの特徴に合わせたトレーニングの実施
- 「**外的視覚条件の支援**」

見えにくさのある子どもたちの支援において、最優先すべき課題。一人一人の力を十分発揮できる環境を整備。

 - 1 **単純化**（図2）
 - 2 **スペース、情報の配置**
 - 3 **コントラスト、色の調整**
 使う色をしぼる
 色のついたアンダーライン
 枠をつける など
 - 4 **文字や図表の拡大**
 単にA4からA3にするだけでは、眼球運動にかえって負担がかかることも
 - 5 **学用品の選択**
 目盛りの読みやすさに配慮した定規
 濃く書けてよく消える鉛筆
 小回りのきく消しゴム など
 - 6 **教室環境の整備**

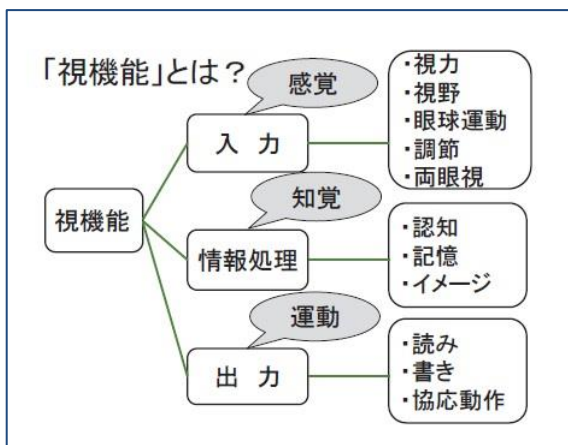


図1

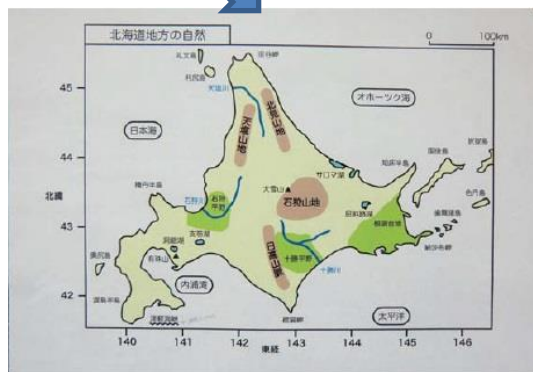


図2

◆聞く機能と授業づくりの工夫について

●聞くことがうまくいかない大きな要因

- 1 聞きたい、覚えたい気持ちがあっても聞き分けられない
- 2 覚えられない
- 3 聞こえているものの中から何を、どの部分を覚えていいのか選べない
- 4 判断がつかない

「ワーキングメモリーの弱さ」

●まずは丁寧な実態把握を（聞く）

- 1 聴力に問題はないか（耳垢栓塞、中耳炎など）
- 2 呼びかけへの反応は？（1対1、騒音下）
- 3 聞き漏らしや聞き違いは？
- 4 話されたことを覚えているか
- 5 内容を理解して行動しているか
- 6 会話が成立しているか（対大人、対子ども）
- 7 語彙力は？読み書きの問題はないか

*話す、読む、書くではどうか

●関連する検査

聴覚性記憶検査、音韻操作課題、WISC-IVなど

●授業での配慮点（図3～5）

- 1 **聞くことを妨害する要因はできるだけ取り除く**
- 2 **聞く力を強化する**
- 3 **一度にたくさんの指示を出さない**
- 4 **視覚教材や道具を効果的に使う**

「見る」「聞く」どちらにも共通して言えることは、適切にアセスメント(実態把握)を行い、個々に応じて環境を整えた上で、子どもたちの持てる力を十分に引き出すことが重要である、ということです。

我々は、子どもたちに「しっかりと見て」「きちんと聞いて」という言葉を投げかけがちです。しかし、たとえ障害名に表れていなくても、目の前の子どもがもしかしたら障害ゆえの困難を抱えているかもしれません。まじめに頑張っている個人での努力だけでは解決しないことがあるということを、常に念頭に置いて、注意深く慎重に指導に当たりたいものです。

●授業での配慮点として

①聞くことを妨害する要因はできるだけ取り除く
＝話に集中しやすい環境を作る。

- ・雑音をできる限り取り除く(窓やドアを閉める、カーテンを閉める、話す場面と聞く場面の区別)
- ・注意を引いてから話す(「これから大事な話をします」+「聞」を効果的に使う、肩を叩く)



②聞く力を強化する。

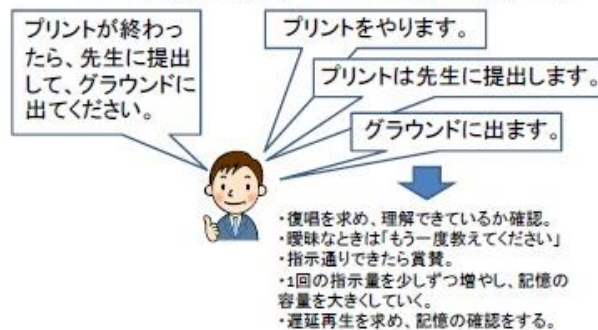
- ・聞いていないとできない楽しいゲームが有効。(伝言ゲーム、連想ゲームを朝の活動で行う。)
- ・スモールステップで「聞いていてよかった」経験を。

25

図3

③一度にたくさんの指示を出さない。

＝1つの行動が終わってから次の指示を。



26

図4

④視覚教材や道具を効果的に使う。

- ・口答だけの指示でなく、実物も添える。
- ・指示を出すときに視覚的手がかりを添える。



27

図5

研修講座の資料については、希望があればお貸ししますので、自立活動部高橋までお問い合わせください。